

ウガンダ国ネリカ米振興計画

(派遣期間：2009年2月～4.4ヶ月および2010年2月～4.2ヶ月、担当業務：品種選定/栽培技術)

プロジェクト背景

ウガンダ国では、農業開発、特に貧困削減の観点からネリカに対する注目が高く、特に副大統領による強力なイニシアティブにより、ネリカの普及が積極的に進められている。このような状況の中、JICAは2004年6月に専門家（ネリカ米適用化計画）をウガンダ国に派遣し、ネリカの普及への本格的な協力を開始し、品種試験を含む各種試験及び農民研修を実施した。その結果、ウガンダ国はサブ・サハラアフリカ諸国の中でもネリカの普及が最も進んでいる国（2002年：1,500haから2007年：30,000ha）のひとつと言われている。しかし、コメはウガンダ国において「新しい作物」であり、技術者や研究者、普及員がほとんどいない。農民はコメ栽培に必要な情報に十分アクセスできないため、現状ではウガンダ国の稲作開発ポテンシャルと比べ、コメ栽培農家はごく一部にとどまっている。

プロジェクト概要

JICAは、ウガンダ国からの要請に基づき、ネリカ研究・栽培に関わる人材育成と技術の向上による普及を通じ、ネリカの生産量および生産性を向上させ、ひいてはウガンダ国のコメの自給率向上に貢献することを目的として「ネリカ米振興計画」を2008年8月より2011年6月までの予定で実施し、長期専門家2名（「稲栽培技術/研修」「業務調整/営農」）などを派遣した。

本プロジェクトにおいては、主対象であるネリカ品種とともに、農家圃場レベルでの低湿地の有効利用の観点から水稻も対象とし、ネリカにかかる品種選定試験、各種耐性試験、水稻品種との比較試験、さらに種子生産試験などを各地のモデル農家圃場などで実施し、適正なネリカ栽培技術の検証、およびウガンダ国関係者の当該分野の試験・研究技術の向上を図るための研修を実施することを目的として、専門家業務を実施した。

担当事項

- 品種選定試験および栽培技術、種子生産技術の技術移転
- 作付け体系の現状調査および既存作付け体系の改善点の検討
- 実験・試験・研究にかかる実務教材（和・英）の作成
- 関係者への実務研修の実施
- 研修後のフォローアップの実施

